



特別支援教育の実践

“本気”のための

「課題の設定」過程の工夫

①児童の生活課題から単元の課題を設定する

児童の既存の知識や経験による理解の実態を把握し、解決すべき問題や次につけたい力を取り上げて単元の課題として設定する。児童の生活とかけ離れた課題よりも、児童が実際に困っていることや実現したいと願っていることを課題にすることで、児童の興味を深め、意欲の喚起が期待できる。

②課題解決の過程を具体的に提示する

単元や毎時間の導入では、スケジュールの提示により活動の流れの見通しをもたせることや、活動内容を視覚的・具体的に示して理解させることを目指す。このことにより、児童を安心させ、「やってみよう。」という意欲を引き出す。また、ゴールまでの過程を具体的に示すことで、児童に「これならできそうだ。」という思いをもたせ、その意欲の持続を図る。

③分かりやすいめあての提示

イメージをもちやすいキーワードや写真等を入れてめあてを提示し、簡単に説明する。既習事項や、日常生活と関連させた事柄や言い回しを用いて、活動の内容やめあてを身近な生活と結び付けて理解させる。これにより、児童にめあてを達成した自分をイメージさせ、自分から学習に取り組む態度に繋げる。

“本気”のための

「まとめ・振り返り」過程の工夫

①めあてに沿った評価をする

活動の都度、めあてに沿った即時評価を行うことで、めあてや学習内容を実感的に捉えさせるとともに、達成感を味わわせ、意欲をもって次の活動に取り組ませる。

②学習したことを言語化・動作化し、自己評価させる

学習したことを制作物や画像・動画を見せて想起させ、めあてに対して発言したり書かせたりして振り返らせることで、できたことを実感させる。学習したことを言語化・動作化して再現させることで、習得した力を強化する。また、振り返りの内容を次時のめあてに繋げたり、次時の振り返りの際に比較させたりすることで、自分の伸びを意識させ、自己肯定感を高める。

③児童の生活課題へ般化する

単元で学習した内容を個々の児童の生活課題の解決に向けて生かすことで、獲得した力の定着と般化を図る。そのために、意図的に問題場面を設定したり生活場面を捉えたりして、学習した内容を生かした解決方法を考えさせる。さらに、学習した内容が課題解決の役に立ったことに気付かせ、学習の有用性を実感させる。

特性に応じた指導・支援の工夫

特別支援教育部会においては、児童一人一人の特性に応じた指導・支援を行うことで、本気で考える児童の姿を引き出し、学びを深めることを目指す。今年度は「深い学び」を追求し、授業研究を通して個々の児童の課題や特性、それに応じた指導・支援方法の検討を行い、支援方法を類型化する取組を進める。成果が検証された指導・支援方法を「特性に応じた指導・支援の工夫を取り入れた『深い学び』を促す授業モデル」としてまとめることで、次年度からの特別支援学級での指導に生かし、通常の学級における特別な支援を必要とする児童の指導・支援にも生かすことができると考える。

①特別支援教育の考え方に基づく指導の工夫

「小学校学習指導要領解説 総則編」には、「障害のある児童の困難さに対する指導上の工夫の意図を理解し、個々の児童に応じたさまざまな手立てを検討し、指導に当たる必要がある」と示されている。これまでの授業研究から、特別支援教育の考え方に基づく指導の工夫を、図1のように整理する。個々の児童の特性に応じた指導・支援を行うことが「深い学び」を促す道筋であると捉えて取り組む。

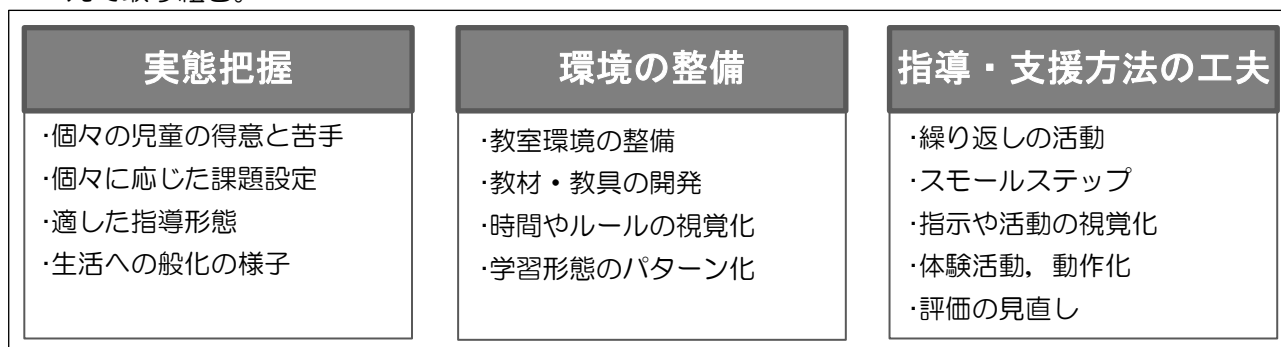


図1 特別支援教育の考え方に基づく指導の工夫

②特別支援学級での「学びの深化」

図2のように、児童の興味が、学習活動への参加、学習内容の理解、習得、さらに生活場面での活用へと広がっていくことが、特別支援学級での「学びの深化」と捉えて取り組む。

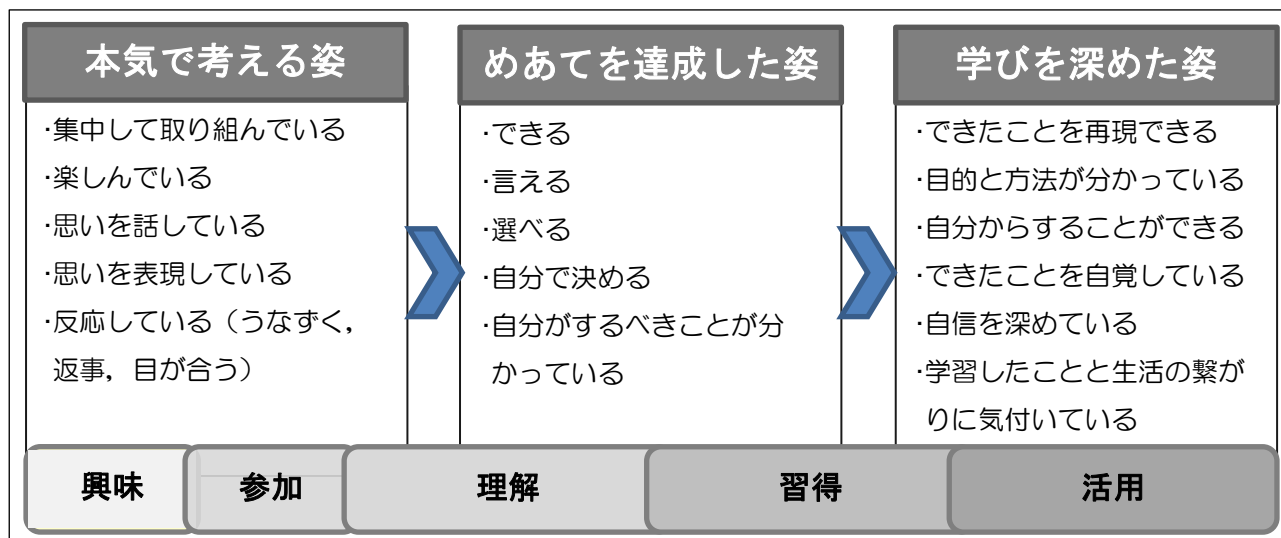


図2 特別支援学級での「学びの深化」

③特性に応じた指導・支援の工夫を取り入れた「深い学び」を促す授業モデル

児童の「深い学び」を促すために、授業過程を、授業前・導入・展開・まとめに分け、特性に応じた指導・支援方法の「項目」と「具体例」を挙げた授業モデルを表1のように作成する。「特性等」の欄には、児童の実態として課題となっている「注意集中」「指示理解」等の特性や、「心理的安定」「意欲」等が低下し課題となっている状況を記載する。

授業前の段階では、集中できる教室環境と安心できる学級づくりを心がけ、目的ごとに活動場所を分ける、スケジュールや時間の可視化、学習規律の視覚提示といった支援を行う。導入では、児童が自ら本気で取り組みたくなるような課題設定を目指し、学習の流れや目的の視覚提示、モデリングや動作化による内容理解、ゴールの姿のイメージ化といった支援を行う。展開では、児童が活動内容を理解し、よりよい方法を考えながら成功体験を積み重ねることを目指し、モデルやヒントの提示、動作化・作業化を通じた学習、思考を整理するワークシートや話型、声かけやシール等による即時評価といった支援を行う。まとめでは、児童が自らの成長に気づき、自己肯定感を高めることを目指し、振り返りシートや発表による評価、動画等による客観的な自己認知、既習事項を生かす場の設定といった支援を行う。

表1 特性に応じた指導・支援の工夫を取り入れた「深い学び」を促す授業モデル

過程	項目	特性に応じた指導・支援の具体例		特性等	
授業前	教室環境の整備	場の構造化	目的ごとに分けられた活動場所	注意集中	
		時間の構造化	スケジュール提示、時間の可視化	指示理解	
		刺激量の調節	声の大きさ・物音、掲示物	注意集中	
	学級づくり	理解促進	失敗を笑わない雰囲気		心理的安定
			互いの特性の理解		共感性
		得意なことを生かした役割分担		意欲	
ルールの明確化	パターン化された授業の流れ		指示理解		
	学習規律の視覚提示		言語理解		
導入	意欲を喚起させる導入	見通し	学習の流れの視覚提示	指示理解	
			既習事項からの解決方法の想起	言語理解	
		パターン化された学習過程	経験不足		
	動機付け	疑問や他者からの依頼による設定	意欲		
	内容理解	視覚的な提示方法、モデリング、動作化	言語理解		
	めあての提示	見通し	学習に取り組む目的の視覚提示	指示理解	
			ゴールの姿のイメージ化	言語理解	
		内容理解	視覚的な提示方法、モデリング、動作化	言語理解	
日常生活との関連			意欲		

展開	展開の パターン化	見通し	モデルやヒントの提示	言語理解
			パターン化された学習過程・方法	心理的安定
	興味を もてる活動	視点の提示	すべき活動を焦点化した掲示物	注意集中
			無駄のない教師の話し方	言語理解
		実態把握	少しがんばれば達成できそうな活動	意欲
	児童に 考えさせる 学習形態	動作化・ 作業化	活動する時間や場面の設定	注意集中
			活動を通じた理解	言語理解
		言語化	思考を整理するワークシート	記憶・理解
			発表の話型，教師が言葉を補いながらの文章化	言語理解
			板書による記録	記憶
	個別スペース	作業や思考のための個別活動	注意集中	
	協働の 必要がある 活動	ペア活動	助言や模範，安心感	意欲
			役割分担	責任感
		グループ活動	協働するための言葉遣いの提示	対人スキル
			考えの共有，深化	言語理解
即時評価	声かけ	よい行動に対して肯定的な評価	意欲	
	シール・花丸	具体物を用いた報酬による評価	意欲	
	教師の目線	達成したことを児童に自覚させる目線や頷き	言語理解	
まとめ	めあてに 沿った評価	自己評価	振り返りカードや発表等による評価	意欲，自信
		他者評価	友達や参観者からの言葉による評価	自信
		教師評価	肯定的な言葉や具体物による評価	成功体験
		振り返りカード	導入時に自分が書いためあてと比較しながらの振り返り	記憶
	振り返りの 言語化	言語化	ワークシートや発表の話型	言語理解
			教師による児童の発言の整理	記憶
			動画等による客観的な自己認知	言語理解
			振り返りカードのファイリング，掲示	記憶・自信
		記録	これまでの振り返りとの比較による伸びの実感	経験不足
	生活場面へ の般化	場面設定	意図的な問題場面の設定	経験不足
			生活場면을捉えた指導	経験不足
			既習事項や活動の様子への掲示	記憶・自信
掲示		既習事項をまとめた「スキルブック」の作成	記憶	
		成功した活動の掲示	自信	

MEMO

